

防災・減災の輪

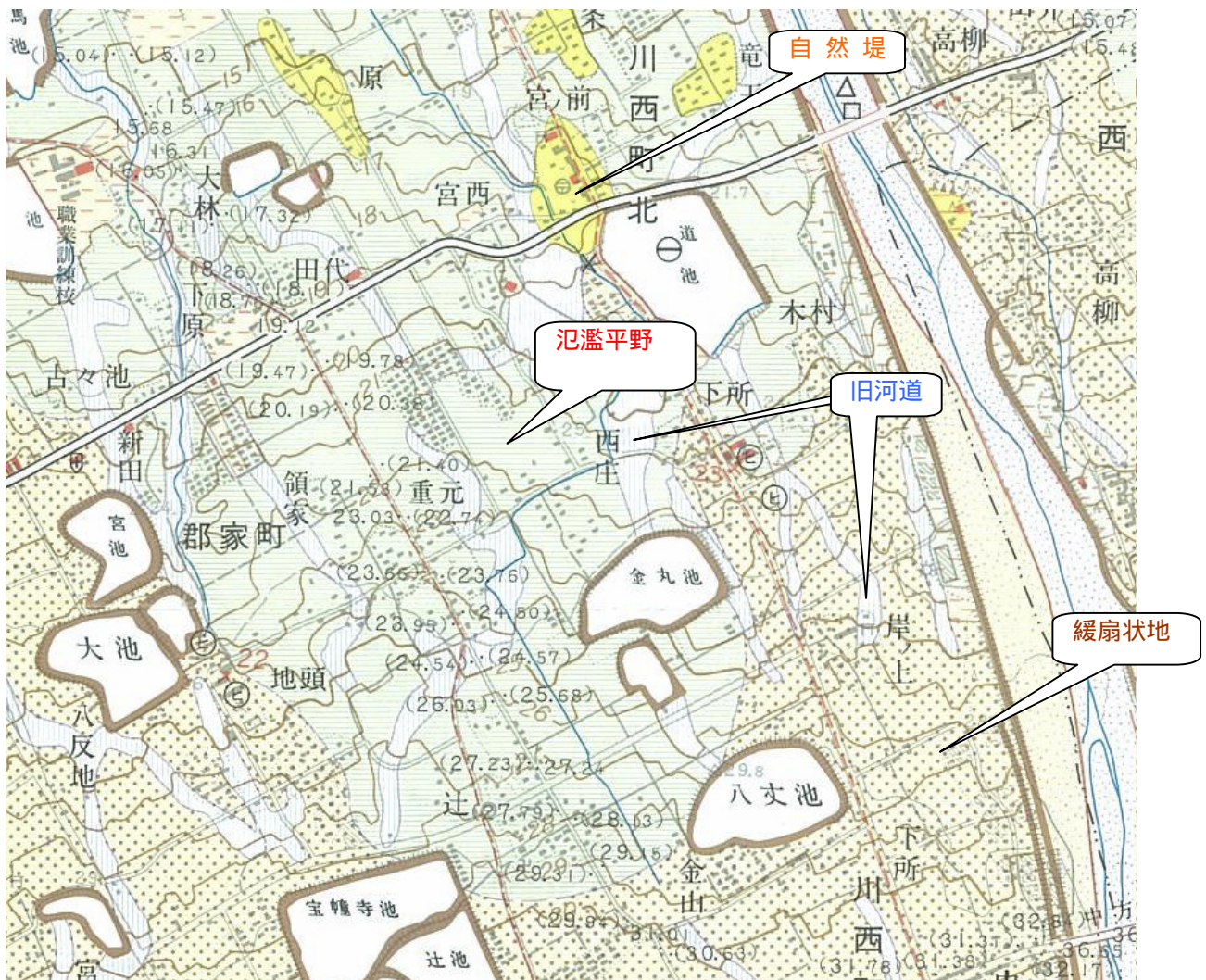
かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第7号 (2007・09)
事務局川西地区自主防災会

1. あなたの足もとは大丈夫？

国土地理院 四国地方測量部

日本列島の平野の地形は、洪水・高潮・津波などそこ人々が居れば災害をもたらし、またこのように自然災害から人々や資産を守るため、ハザードマップの作成と活用が奨励されています。国土地理院では、多くの都市が立地する平野部や主たる防災対策推進地域などを対象として、平野の形成史、すなわち洪水などの災害の履歴を反映する地形分類およびその土地の高さを表現した地盤高線、防災関連の機関や施設をハザードマップ作成に必要な基礎的な地理情報として整備し、その成果を土地条件図として提供しています。(国土地理院ホームページより転載)

早速土地条件図を見てみましょう。図は2万5千分の1土地条件図「丸亀」の一部です。図の右側に土器川が流れ、図の全体がこの川によって運ばれた土砂により形成された地形であることが伺えます。主な地形は、川やため池の堤防、土器川の氾濫によってできた氾濫平野・扇状地・自然堤防・旧河道などです。



2万5千分の1土地条件図「丸亀」(一部・縮尺を変更)(昭和59年調査)

* この土地条件図を作成したときの調査は昭和 59 年で、今から 20 年以上も前です。従って、家や道路などある程度の経年変化があるかと思いますが、足もとの地面の状態に変化はないと思います。

国土地理院のホームページによるそれぞれの地形の特徴は次の通りです。

扇状地：河川が山地から出た地点に河川が運び出す土砂が堆積して形成された扇形の地形。主として砂礫からなり、地盤は良いが、出水時には水害をうける可能性がある。

緩扇状地：上記扇状地に比べて傾斜が緩いものを区別して表示している。一般に規模の大きい扇状地はこれに相当する。

自然堤防：洪水時に運ばれた砂やシルトが、流路沿いまたはその周辺に堆積してできた高まり。周辺の低地の一般面に比べて水はけは良い。

氾濫平野：河川の堆積作用により形成された低平な土地。砂、粘土などからなる部分の地盤は軟弱である。

旧河道：低地の一般面の中で周囲より低い帯状の凹地で過去の河川流路の跡。非常に浸水しやすく、水はけが悪い。

次にこの土地条件図の凡例を示します。

低 地 の 一 般 面	谷底平野・氾濫平野		低	扇状地	
	海岸平野・三角州		地	緩扇状地	
	後背低地		の	自然堤防	
	旧河道		微	砂丘	
			高	砂(礫)堆 砂(礫)州	
			地	天井川沿いの 微高地	

図に示した地域とその周辺は、一般的に水害に弱い場所といえます。特に旧河道や氾濫平野は、水が出やすく、注意が必要です。いずれにしても水害のおそれがある場合は早めの避難が寛容です。

また、旧河道や氾濫平野は地盤が悪く、地震の時には他の場所より強く揺れるおそれがあり、また、液状化現象が起きるおそれもあるので注意が必要です。家の耐震診断を受けたり、場合によっては耐震補強も必要と思います。また、家具を固定する、寝室にはタンスや戸棚など背の高い家具を置かないなどの注意が必要です。

土地条件図は、地形図を扱っている一般の書店で取り寄せることができます。また、インターネットでも閲覧できます（URL：<http://www1.gsi.go.jp/geowww/landcondition/landcondition.html>）。是非一度ごらんになって、自分の足もとを確かめてみませんか？

次の図はインターネットでみた土地条件図です。

国土地理院 主題図閲覧 土地条件調査 閲覧(電子国土) 購入(印刷図) 数値地図 地図販売店一覧 印刷図の閲覧について

土地条件図

丸亀

見たところをクリックして下さい
[凡例]
調査年 昭和59年
サイズ 四六判
色数 表12・裏1色
解説 解説面[PDF]4.0MB

広域図

高梁 姫路 徳島 丸亀 高松

全国の作成区域> 問い合わせ先>

©2005,2006 国土地理院

この記事に対する連絡先（土地条件図入手方法の問い合わせを含む）

国土地理院四国地方測量部 高松市松島町 1-17-33 高松第二合同庁舎

T E L : 087-861-9013

F A X : 087-837-3493

2. わが街の紹介（自主防災）飯山南コミュニティ

センターリニューアルオープン
記念祭 テント村



共助活動バケツリレー



防災部会員指導
ロープワーク



飯山南地区「法の郷」は大いに賑わった。今春行ったセンターリニューアルオープン記念祭でコミュニティスタッフ、ボランティアの活躍、地域の人たちの祭りへの多数参加で地元の活力と住民の底力を見た。開会式で児童代表が「みんなで助け合う防災のまちづくり」宣言をした。南地区は、豊かな田園のなかに住宅化が徐々にすすむ地域で、土地の人々は安全で安心して暮らせるよいところと信じてる。しかし、繰り返り起きる台風、地震災害、また、想定される南海地震等身近に迫る危険に対して、地域の人々の意識も変わってきた。

幸い土器川を挟んで防災に取り組む最優秀地区の川西地区と隣あわせで、東小川（飯山南）と西小川（川西）は、地区内にある八幡神社の同じ氏子として古くからの繋がりが深い。よいお手本えて、本年度は、東小川（大字）16自治会を対象に防災訓練を小学校で行った。次年度以降下法、上法軍寺と3年で一巡、全自治会住民の訓練が実施できる。10月末には、防災リレーを取り入れた運動会、参加者全員に炊き出しの「おすし」を配布、秋空のもとみんな揃って昼食として召し上がることにしている。

自主防災組織設立に向け、去年は、川西自主防災会岩崎会長他をお招きして研修会を行った。11月には北淡町震災記念公園へ連合自治会長、防災部会員合同で視察、体験談を聞くことにしている。わが地区は、コミュニティ防災組織、自治会防災組織それぞれの組織作りは勿論、実践についても緒についたところであり、コミュニティ活動そのものも未熟な活動地区である。先進地域のご指導を得て、「安全、安心の地域づくり」活動の輪を広げていきたいものである。

事務局連絡先：〒763-0092 丸亀市川西町南428 川西コミュニティセンター内
かがわ自主ぼう連絡協議会事務局（川西地区自主防災会）
0877-28-5519 e-mail:josin-c@mail.netwave.or.jp